

画像符号化・映像メディア処理レター特集の発行にあたって



画像符号化・映像メディア処理レター特集編集委員会

委員長 齊藤 隆弘

「画像符号化・映像メディア処理」を主題とした本レター特集は、2007年度7月号に本論文誌に掲載されたものが第1回であり、今回が第2回目となる。本レター特集は、本学会画像工学研究専門委員会の主催によって、画像符号化・映像メディア処理分野の国内専門家が着想段階のアイデアも含めた研究発表と意見交換を泊まり込みで行う場として、毎年晩秋に、同一会場にて継続して開催されている画像符号化シンポジウム(PCSJ)と映像メディア処理シンポジウム(IMPS)と連動させて企画したものである。PCSJとIMPSでは、20年以上にわたり、最新のアイデアや研究成果が発表され、熱心な討議がなされ、これらの分野での研究開発の進展に大いに寄与してきたが、PCSJとIMPSの場での熱い議論の内容が本学会の会員諸兄に必ずしも迅速かつ正確に伝わっていたわけではなかった。そこで、2007年より、前年秋に開催された直近のシンポジウムPCSJとIMPSで発表された研究成果を、その討議を踏まえて発展させたもの、並びに画像符号化・映像メディア処理に関連したその他の研究を主題とした特集号を企画した。特に、速報性を重視し、レター特集とした。

第1回の昨年度は、50編の投稿があり(内PCSJ2006/IMPS2006で発表されたもの34編)、そのうち28編が採録となったが、第2回である今回は、49編の投稿があ

り(内PCSJ2007/IMPS2007で発表されたもの31編)、そのうち36編が採録となった。2回目ということもあり、投稿論文の質が向上し、1年目と比較すると採択率が向上した。採録された論文を分野分類すると、画像符号化分野は15編、映像メディア処理分野は21編であり、その内容を精査すると、(1)画像処理・符号化の新しいパラダイムの開拓を志向した基礎的研究が進展、(2)画像エレクトロニクスの進展に歩調を合わせ高フレームレート映像・三次元/多視点映像を対象とした研究が活性化、(3)メディア応用から画像監視・ATSなどへと応用ターゲットが多様化、などの傾向が読み取れる。今後も、この傾向が強まるものと大いに期待される。

最後に、貴重な研究成果を投稿して頂いた方々、本特集編集委員会メンバ、査読委員、本企画をサポートして頂いた和文論文誌D編集委員会の関係各位に深く感謝の意を表します。また、本レター特集が、本学会の会員諸兄に有益なものであれば、幸いです。

齊藤 隆弘(正員) 昭51東大・工・電気卒。昭56同大大学院博士課程了。工博。同年神奈川大・工・専任講師。平3同教授。現在に至る。画像入力、信号処理、画像処理、画像符号化など画像工学に関する研究に従事。現在、画像符号化シンポジウム・映像メディア処理シンポジウム運営委員長。

画像符号化・映像メディア処理レター特集編集委員会

- | | |
|-----|-------------------------|
| 委員長 | 齊藤 隆弘 |
| 幹事 | 境田 慎一・坂東 幸浩 |
| 委員 | 相澤 清晴・加藤 嘉明・川田 亮一・久保田 彰 |
| | 筒口 拳・浜本 隆之・半谷 精一郎・藤井 俊彰 |
| | 八島 由幸・米山 暁夫 |